

海なしでもサーファー気分

長柄中生120人にプロが教室

長柄町の町立長柄中学校で19日、プロサーファーら4人を招いて、サーフィン教室が開かれた。全校生徒

約120人が参加。サーフィンについての話を聞いた後、生徒の一部は体験用のボードを使ってサーフィン



大村奈央選手(右端)らの指導でサーフィン体験をする生徒。長柄町

気分を味わった。

長柄町は、2020年東京五輪のサーフィン会場となる一宮町と同じ長生郡にはあるものの、間に茂原市などを挟む、海のない町。それでもサーフィンについて関心を持ってもらおうと県や日本サーフィン連盟などが企画した。

この日指導したのは、同連盟広報副委員長の岩波重之さんのほか、一宮町出身の大原洋人選手(22)、同じく稲葉玲王選手(21)、神奈川県藤沢市出身の大村奈央選手(26)。3人の選手は海外を転戦する合間を縫って集まった。

大原選手は「海外での大会は、精神面のコンドロー

ルが大事」と話し、稲葉選手は「うまく波に乗れたときの達成感が気持ちいい」と語った。大村選手は「好きで始めて、好きで続けている。楽しいからやっている」と話した。(稲田博二)